



2013年1月26日(土)

【アクセス】 新祝園 6:35 橿原行急行—八木乗換え榛原下車—奈良交通受付 2000 円払い、  
8 時 10 分の臨時霧氷号に乗車—座席満席で発車—8 時 50 分登山口に到着

### 【登山記録】

台高山脈の台は、大台ヶ原の台、高見山の高をとったものである。高見山は、台高山脈の北の端の要になる。姿形は他の山様と異なり、とてもピラミダルな美しい姿をして登高意欲がそそられる。

登山開始に先立ちストレッチ体操をして、9 時丁度に元気に出発。20M 程戻って右手の民家の東側の階段を登り、石畳の続くゆるやかな九十九折りの道を進む。左手の看板に、旧伊勢街道と表示あり。続いて古市跡の標識あり。昔むかしこんな山中に市が開かれ米、塩、魚などの売買が賑やかにされていたと書かれている。今日の近畿地方の天候は、かなり気温が低く、特に山岳では氷点下になると報じられている。今居るあたりから積雪が見られるようになってきた。前方は右に急曲がりに出た。ここは、雲母曲(きららひじ)という看板の前を急登りして進むと、樹林が一時切れてアルプスの山岳を見ているような白い姿の高見山がおいでおいでしている。足元の雪の凍結が見られるので、今日の参加者全員持参のアイゼンを装着する。装着の仕方に時間がかかる。やはり家で練習を重ねることと、不備箇所は修繕しておかないといけないと思われた。

前方に鳥居を発見。ここが小峠という。右方向は大峠であるが、登山道は一部崩壊していて今は通行不可の知らせを奈良交通から通知されている。これより高見山の西主尾根を目指して小さな鳥居をくぐり堅雪の急勾配を一步一步足元のアイゼンをしっかり滑らないように慎重に歩を進める。こういう箇所ではハヤル心は捨てて、ただ黙々と落ち着いて左右の足を前に出すことだけ考えて進む。

少し平坦な場所となった。前方に高見平野からとの分岐に出た。11 人の確認をして小休憩となる。ここで衣服調整及び少しの飲食を摂る。風は北風で飛ばされるくらいの雪煙の急勾配が頂上まで続く。ストックを突き刺し転倒防止しながらの進行である。途中、国見岩・笛吹岩の大きな岩陵の陰で一休みしながら歩を進める。やっと山頂手前の避難小屋が雪煙でうっすらと見えてきた。元気が湧いてきて山頂へ一段と足に力を注ぎ、八咫鳥建角見命を祀る社と霊峰高見山の石標の横に立つ。過去ではここで記念撮影するのが恒であるが、すごい強風と手や顔の冷たさに耐え切れない状態なので、早々に避難小屋に入り、そこそこに弁当にかぶりついた。できるだけ早く下山にとりついた。

平野分岐までは、急勾配と強風で耐え耐えアイゼンとストックに助けられての下りだった。ここまで来ると顔や手指の冷えは止み、暖かいぐらいとなってルンルンの下山で、皆んな楽しくおしゃべりしながら高見平野へ。これがまた登山の参考になる話も混じり、ツアー登山とは違う充実した山行となる。途中の高見杉の避難小屋横で写真撮影、そして西尾根の下山を続け平野集落に着いた。奈良交通の霧氷号の臨時バスに揺られ睡魔の時間となった。

皆さんヒヤリハットも無く、無事の楽しい登山であった。冬山登山のキビシサの経験を久々に味わいました。有難うございました。 以上

